

**製品名: CPT2 (2S12) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe09334**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:50-1:100
分子量	74kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CPT2
別名	CPT1; CPT2; IIAE4; CPTASE;
遺伝子 ID	1376.0
SwissProt ID	P23786
免疫原	ヒト CPT2 の合成ペプチド

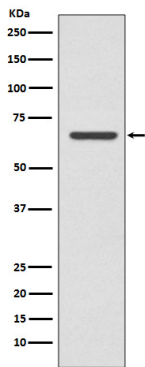
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は核タンパク質であり、ミトコンドリア内膜へ輸送されます。コードされているタンパク質は、カルニチンパルミトイルトランスフェラーゼIと共に、ミトコンドリア内で長鎖脂肪酸を酸化します。この遺伝子の欠陥は、ミトコンドリア長鎖脂肪酸 (LCFA) 酸化障害と関連しています。蓄積されたアシル CoA 代謝物からのアシルカルニチンのミトコンドリア内合成に関与しています (PubMed:20538056、PubMed:24780397)。アシルカルニチンをそれぞれのアシル CoA エステルに再変換し、その後  $\beta$  酸化を受けます。これは、ミトコンドリアによる長鎖脂肪酸の取り込みと、それに続くミトコンドリア内での  $\beta$  酸化に不可欠なステップです。中鎖 (C8-C12) および長鎖 (C14-C18) アシル CoA エステルと活性があります (PubMed:20538056)。

## 研究分野

-

## 画像データ



MCF-7 細胞溶解物における CPT2 発現のウェスタン プロット分析。